平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
ふりがな **学校名** （児童数）	おたるしりつしおみだいしょうがっこう 小樽市立潮見台小学校（288 人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：北海道小樽市新富町９－13
電話番号：0134-23-9251
研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL:www.otaru.ed.jp/shiomidai-ps/sub8.html

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：２小学校
○研究対象教科等：国語
○研究のキーワード：「単元を貫く言語活動」「年間の見通しをもった付けたい力」「第二次の学習の改善」「読書環境の充実」
○研究成果のポイント：①「読むこと」の領域における言語活動の系統表
②児童の「お気に入り」「なるほど」を中心に据えた第二次の学習
③付けたい力を踏まえた学習シートを活用した交流
④並行読書などを促進する読書環境

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

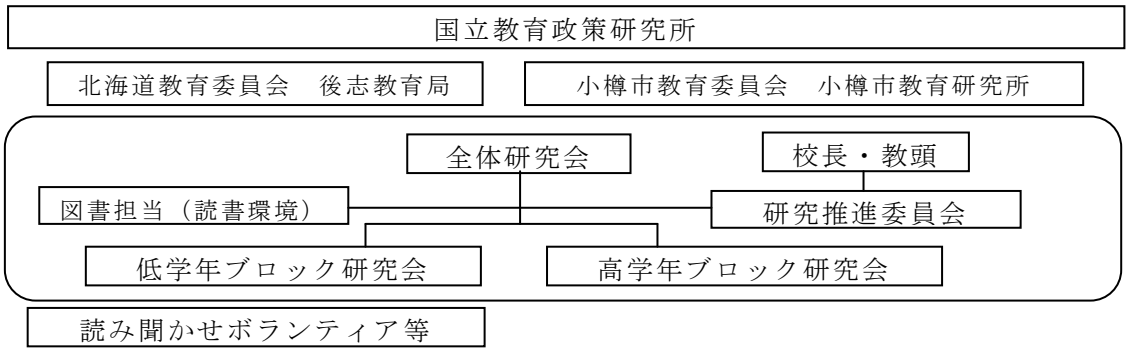
自ら学び，豊かに伝え合う子どもの育成 ～国語科「読むこと」の領域における単元を貫く言語活動の充実を通して～

（２）研究主題設定の理由

本校においては，目的や意図に応じ，本や文章を比べて読むことや，複数の情報を結び付けながら自分の考えをまとめることをはじめ，交流を通して自分の考えを広げたり深めたりして読むこと，「読むこと」の学びが他教科での学習や日常生活における児童の読書に生きて働くことなどに課題が見られる。

そのため，児童に必要な読む能力をしっかりと身に付けさせる言語活動を適切に授業に位置付け，児童が課題解決の過程の中で主体的に思考・判断し，言語表現をする授業を目指して本研究主題を設定した。

（３）研究体制



（４）１年間の主な取組の経過

平成25	・「読むこと」の領域に関わる実態把握（標準学力検査の実施）（４月） ・「家庭学習の手引」「音読カード」等の配布及び家庭との連携（４月） ・学校図書館の配架及びレイアウト等の見直し並びに言語・読書環境の整備（５月）

年度	・提案授業及び第一次研究授業の実施(学習シートの開発，書く活動との関連，第三次での言語活動)（５月～７月） ・第二次研究授業の実施（学習シートの開発，第二次の授業改善）（８月～９月） ・「読むこと」の領域における単元を貫く言語活動の系統表（試案）の作成(10月) ・公開研究会の開催（第三次研究授業）(11月) ・第三次研究授業等の授業評価の実施（12月） ・「読むこと」の領域における単元を貫く言語活動の系統表（試案）の見直し(１月) ・標準学力検査の実施，実践成果発表会（２月）

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

①単元を貫く言語活動について系統性を見出し，年間の見通しをもって付けたい力に相応しい単元を貫く言語活動の選定

②第二次の学習において単元を貫く言語活動を児童が意識できる手立ての工夫

③書く活動との関連を図った学習シートを生かした交流場面の設定

④音読の奨励と並行読書などを促進する読書環境の充実

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

①年間の見通しをもった付けたい力にふさわしい単元を選定するに当たって,「読むこと」の領域における単元を貫く言語活動の類型化や指導事項のマトリックス化を図った「『読むこと』の領域における単元を貫く言語活動の系統表（試案）」を作成したことによって，螺旋的な指導が一層充実している。

②児童の「お気に入り」「なるほど」を中心に据えた第二次の学習を展開するとともに，授業の導入や終末に単元を貫く言語活動とのかかわりを取り扱うことにより，学習への興味や関心が高まり，児童自らが見通しをもって主体的に学習に取り組もうとする姿勢が見られるようになっている。

③教材文全文を俯瞰できるようにするとともに，付けたい力に応じて指導事項を踏まえた項目（パーツ）を配置した学習シートに書き込んだり，児童が互いの学習シートに感想などの付箋を貼ったりすることにより，交流場面での思考の高まりがみられるようになっている。

④全校で音読カードに取り組むことにより，児童は本や文章に親しみ，内容のおおよそをつかむことができるようになっている。また，教科書教材と関連する図書を児童の身近に配置するとともに，学校図書館にブックポスター等の言語活動によって作成した児童の作品を展示することにより多読や並行読書が促進されている。

（２）研究成果の意義等

①単元を貫く言語活動の系統表を作成することにより，付けたい力にふさわしい言語活動を選定する際の着眼点が明確になることから，各学校での年間指導計画の改善を図ることができる。

②第二次における単位時間の学習活動と言語活動との関連を図る手立てを具体化できる。

③児童の実生活における読書や他教科での学習に生かすことができる言語環境の改善を図ることができる。

（３）指定期間終了後の取組

①「『読むこと』の領域における単元を貫く言語活動の系統表(試案)」の見直し

②第二次の単位時間における学習活動に並行読書を位置付けた単元の構想

③児童の読書量や読書対象のジャンルの増加などの読書習慣の形成